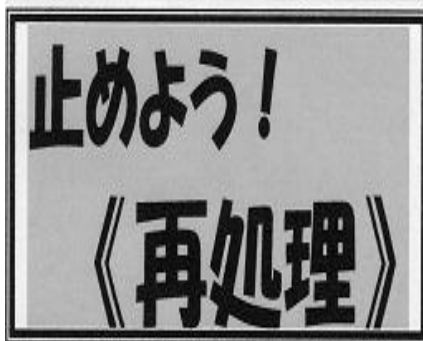


三陸の海を放射能から守る 岩手の会

郵便振替 02240-5-102650
ホームページ《再処理/岩手の環境》
<http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm>
《まった再処理分庫》
<http://briefcase.vahoo.co.jp/kimag>



《天恵の海》

2013(平成 25)年
2月8日
第122号
編集事務局 S.Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

「高レベル放射性廃液」の危険性の認識を! 衆参国会議員55人に陳情

国会議員様 (提出団体)

- ◎三陸の海を放射能から守る岩手の会
 - ◎三陸のサンマ・ワカメを愛する会
 - ◎脱原発とうかい塾
 - ◎核燃サイクル阻止1万人訴訟原告団
- 他 賛同 16団体

再処理工場の事故防止に関する要望書 (ほぼ全文)

【要望事項】再処理工場(東海村、六ヶ所村)に溜まっている高レベル放射性廃液の安全管理を徹底させてください。

国内には高レベル放射性廃液が、(独)日本原子力研究開発機構東海研究開発センター再処理施設に約393m³、日本原燃(株)六ヶ所再処理工場に約240m³が貯蔵されています。この高レベル廃液は冷却が途切れると自己崩壊熱により24~53時間で沸騰し大量の放射能が環境に漏洩することが想定されます。また放射線分解で発生する水素は10~40時間で爆発危険濃度に到達します。

東海再処理工場に福島第一原発並の津波が到来していたならば、電源喪失のためこれが現実のものになっていたはずですが、ストロンチウムなどの放射能による高濃度汚染のためおそらく首都圏は人が住めなくなっていたことが想定されます。大地震・大津波・外部からのミサイル攻撃などが引き金になり、電源喪失、廃液の沸騰爆発、大量の放射能の環境放出という過酷事故が想定されますが、これに対する事業者の対応措置は極めて不十分です。

世界では1957年、旧ソ連南ウラルのマヤーク再処理工場で高レベル廃液の爆発が起こり、環境が汚染される大事故があり現在も人が住めない状況です。

国の原子力規制委員会等に問題を取り上げさせ、高レベル廃液を早期にガラス固化させるなど、過酷事故対策を求め、絶対に放射能の環境漏洩事故が起きないよう対策を講じさせてください。

天恵の自然にあふれるこの国で人々や生き物が未永く安心して暮らせるため、これ以上放射能で環境を汚染することがないようにご尽力お願い申し上げます。

*「全文」と「配布資料」は 岩手の会ホームページにあります



新装の衆参議員会館

正月明けの十一日三陸の海を放射能から守る岩手の会」と「三陸のサンマ・ワカメを愛する会」の会員が手分けをして、衆参議員会館の国会議員事務所を訪問し「高レベル放射性廃液」の危険な実態を訴える陳情を行いました。

再処理工場のある青森、茨城はじめ、北海道、東北選出議員と脱原発や再処理問題に関心のある議員など五五人でした。衆議院議員選挙で、かなりの議員が入れ替わりしました。岩手の会ではまわりきれなかった議員にも郵送するなど、訴えを続けます。

議員まわりをした会員の感想

◇国会議事堂に近接する衆参議員会館は新しく建て替えられ立派になっていました。受付で議員事務所ごとのアポをとり、階段やエレベーターで行ったり来たり大変でした。議員本人にお会いすることはなかなか出来ませんでした。どの党の議員秘書さんも、予想以上に真剣に聞いてくださいました。

◇再処理工場の地元の青森、茨城選出議員事務所では、当然ながら一生懸命聞いてくれました。環境正副大臣、政務官の事務所も訪問しました。「しっかり議員に伝えます」「再処理工場がミサイル攻撃の対象となると聞いたことがある」などの感想が返ってきた事務所もありました。

◇政権党に返り咲いた自民党本部を訪問しましたが、多くのガードマンがおり、原子力やエネルギー問題については事前のアポが必要という事で、陳情はなりませんでした。

原発から早期撤退を求める 岩手県学識者の会 結成



岩手県内の大学教員、医師、弁護士らによる「原発から早期撤退を求める岩手県学識者の会」が結成されました。昨年、有志二三人から「福島原発事故は一人ひとりに、今後原発をどうするかを厳しく問いかける。原発からの早期撤退と新しいエネルギー政策への転換を」とするアピールが出されました。これまでに、一二人の賛同者があつまり、連名して結成総会の運びとなりました。

総会では「福島事故を繰り返さないために、子や孫の未来を見据えて、早期の原発からの撤退と、自然エネルギー基軸の政策への転換を求める」とする結成宣言が読み上げられ採択されました。

会の役員は次のとおり。
代表世話人
高橋八郎氏（岩大名誉教授）
小野寺けい子氏
（盛岡医療生協理事長
小児科医）
千田功平氏（弁護士）
事務局長
高塚龍之氏（岩大名誉教授）
活動方針
会運営の基本作りの一年とし、会の研究会・学習会で、原発問題や自然エネルギーについて

て認識を深める。会のニュースの発行に努める。講演会・シンポジウムなどの主催や共催。専門性を生かした講師活動。（などなど）

記念講演会

「放射能の人体影響と原子力ムラの問題、核兵器も原発もない世界をめざして」と題して名古屋大学名誉教授の沢田昭二先生の講演がありました。

沢田先生は広島で被爆しました。その時、倒壊した家屋の下敷きとなった母親を助けることが出来ませんでした。その後物理学者となり、アメリカの原爆調査研究の残留放射能（内部被ばく）の無視についてその不合理を厳しく追求しました。原爆と原発の核分裂について模型図でわかりやすく解説し、巨大エネルギーによる惨状もたらす、原爆も原発もない世界を目指すことを訴えました。

豊かな三陸の海を守る会 「B溶融炉試験」など話題



新年会

豊かな三陸の海を守る会の新年会は一月二十七日、磯鶏公民館に二〇数名が集まり開催されました。田村会長から「大震災から二年経とうとしている。海を守るため頑張りぬこう」と挨拶があり、岩手の会から出席した永田文夫さんが「六ヶ所再処理工場のB溶融炉試験について」報告しました。懇談会では、がれきや牧草の焼却の放射能汚染のリスクや、山田町が緊急雇用創出事業を委託したNPO法人の不明朗会計事件が話題となりました。「放射能海洋放出規制法」の請願運動については、残す金石市議会での採択を本年こそやりぬこうと話合いました。

前号の訂正 裏面最下段 衆議院選挙記事、自民党「12%」は「16%」の誤記でした。お詫びして訂正します。

2006~8年度に 海洋放出量の99%集中 六ヶ所再処理工場 無謀な使用済み核燃料の切断・高レベル廃液の蓄積

液体放出	トリウム(ベクレル)	年度%	ヨウ素129(Bq)	ヨウ素131(Bq)
06年度	497兆7001億	22.78%	9424万	310万
07年度	1320兆2000億	60.43%	2億3872万	463万
08年度	359兆5200億	16.46%	2億1250万	4835万
09年度	4兆1100億	0.19%	1248万	検出限界値以下
10年度	1兆3630億	0.06%	1972万	検出限界値以下
11年度	8890億	0.04%	211万	検出限界値以下
12年度	7710億	0.04%	530万	検出限界値以下
放出総計	2184兆5531億	100.00%	5億8507万	5608万

六ヶ所再処理工場の廃液の放出量はアクティブ試験開始の二〇〇六年四月から二〇〇八年十月までに集中しています。使用済み核燃料のせん断・溶解の時期です。同時に超危険な高レベル放射性廃液が二四〇立方メートルも溜まっています。ところが、ガラス固化溶解炉が不調で、動きが取れなくなりました。今は工場から廃液の量は少ないのですが、もし稼動すればこれに数倍する汚染が再び始まります。

*2012年度は4~12月まで (日本原燃 ホームページによる)